

## 第 35 回地盤震動シンポジウム

### 「頻発する内陸地殻内地震の地震動とその解釈 新・入力地震動作成手法の使い方と検証(その1)」

<主催> 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

地盤震動小委員会では、2002 年度から「地盤震動研究を耐震設計に如何に活かすか」という中期テーマを設定し、5 回にわたりシンポジウムを開催してきた。そして、これら一連のシンポジウムでの議論を踏まえ、地震とサイトを特定したシナリオ型強震動予測手法に基づく設計用入力地震動作成指針の提案を活動の柱とし、その指針も完成間近となった。

そこで、本委員会では次のステップとして、近年多発している被害地震を十分解明し、指針の適用性を確認するとともに、新たな課題を明らかにすることを中長期目標に設定した。今年度は能登半島地震、新潟県中越沖地震など、内陸地殻内を震源とする被害地震が頻発していることもあり、これらを中心として近年発生したさまざまな内陸地殻内地震を取り上げ、現状の地震動評価・予測レベルの到達点を地震動研究者と設計実務者間で議論いただくためのシンポジウムを企画した。

日時 : 2007 年 11 月 16 日 (金) 10:00 ~ 17:10

会場 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

内容

記録 : 神野達夫 (広島大学)

#### 【午前の部】

司会 : 前田寿朗 (早稲田大学)・ 鎌田泰子 (神戸大学)

##### 10:00- 1. 主旨説明

: 加藤研一 (当小委員会主査 / 鹿島建設)

##### 2. 2007 年能登半島地震の解明を目指して

##### 10:10- 2-1 活断層研究から見た特徴

: 遠田晋次 (産業技術総合研究所)

##### 10:30- 2-2 震源過程から見た特徴

: 岩田知孝 (京都大学)

##### 10:50- 2-3 強震動から見た特徴

: 野津 厚 (港湾空港技術研究所)

##### 11:10- 2-4 地盤震動から見た特徴

: 山中浩明 (当小委員会幹事 / 東京工業大学)

##### 11:30- 2-5 構造物被害と地震動の関係

: 境 有紀 (筑波大学)

##### 3. 2007 年新潟県中越沖地震の強震動と被害

##### 11:50- 3-1 強震動の特徴

: 青井 真 (防災科学技術研究所)

##### 12:10- 3-2 構造物被害と地震動

: 中村友紀子 (新潟大学)

..... [昼休み 1 時間] .....

#### 【午後の部】

司会 : 飛田 潤 (名古屋大学)・ 小山 信 (建築研究所)

##### 13:30- 4. 特別講演「ローカルサイトイフェクト研究を振り返って」

: 工藤一嘉 (日本大学 / 東電設計)

##### 5. 近年発生した内陸地殻内地震による地震動の解釈

##### 14:30- 5-1 福岡県西方沖地震 福岡市内の強震動パルス

: 川瀬 博 (九州大学)

##### 14:50- 5-2 新潟県中越地震 大加速度記録の発生要因

: 芝 良昭 (電力中央研究所)

..... [休憩 10 分] .....

##### 15:20- 5-3 宮城県北部地震 震源近傍の強震動の再現

: 大野 晋 (東北大学)

##### 15:40- 5-4 内陸地殻内地震による地震動の相互比較 類似点と相違点

: 久田嘉章 (工学院大学)

##### 16:00- 6. 総合討論 試される入力地震動作成手法の適用性

司会 : 釜江克宏 (京都大学)・ 高井伸雄 (北海道大学)

##### 17:00- 7. まとめ

: 野畑有秀 (当小委員会幹事 / 大林組)

\* シンポジウム終了後、懇親会を予定しています。

定員 : 200 名 (当日会場先着順)

参加費 : 会員 5,000 円、登録メンバー 5,500 円、会員外 6,000 円、学生 3,000 円

\* 資料代 3,000 円含む

問合せ : 日本建築学会研究事業グループ 伏見 fushimi@aij.or.jp